

# 自主事業

## 2020年度活動状況と2021年度の方向性



### 子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を財団設立当初から実施しています。2020年度は、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高かったことが特徴的でした。感染症対策のため、体験型出張授業は実施を見送りました。

#### 教育プログラムの開発・普及

**防災**

保育園・幼稚園向け

「じしんのときのおやくそく」

防災教育紙芝居

「じしんのときのおやくそく」

全国の保育園・幼稚園等配布数\*のべ約 **11,000 園**

**防犯**

小学校 低学年向け

「子どもが安心・安全に暮らすためのハンドブック」

子どもの安全・安心ハンドブックと安全教室実施パッケージ

全国の小学校等配布数\*のべ約 **29 万部**

**ネット**

小学校 中・高学年向け

「初めてのスマホ安心ガイドブックと安全教室実施パッケージ」

初めてのスマホ安心ガイドブックと安全教室実施パッケージ

全国の小学校等配布数\*のべ約 **35 万部**

\*配布数はすべて2021年3月時点

2021年度は

学校現場以外の方々も含め、より多くの方に活用いただけるよう、さらなる普及の拡大を目指します。



### 病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、有効な学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

#### 院内学級での学び支援プロジェクト



5年間の成果が認められて、東京都での行政予算化が決定

⇒詳細はP7~の特集参照

東京都内の特別支援学校5校と連携し、分身ロボットOriHimeを学びに活用。病児の学びや体験の機会や同年代の子どもとのつながりを増やすことができた。

#### 発達障がいのある子どもと保護者の学び支援

子ども向け支援



東京芸術大学COI拠点、NPO法人ADDSと連携し、「音と光の動物園」を横浜・渋谷で実施。

保護者向け支援



療育の専門家であるNPO法人ACOとともに、保護者向けプログラムを開催。

2021年度は

院内学級プロジェクトは、成果と共に見えてきた課題を踏まえ、より汎用的な学びモデルの開発を目指します。発達障がいのある子どもと保護者の学び支援は、ニーズと当財団の役割を見極め、地域の実態に合った活動に整理していきます。



### 経済的困難を抱える子どもの学び支援

助成事業を実施する中で見えてきた、団体共通課題への解決のモデル作りや、社会課題の発信を、知見あるセクターと協業して取り組んでいます。

#### 学びの質向上

KIDSDOOR NPO法人キッズドア

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

「言葉の力」

「言葉の力」の向上をねらった中学生向け教材を制作。2021年度は全国の学習支援団体の現場に無償提供予定。

#### 課題の社会発信

外国ルーツの子どもの学び

社会的養護の子どもの学び

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

連携して発信!

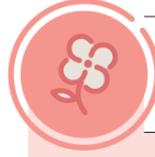
課題発信 ノウハウ共有

理解者の拡大

「社会的養護の子どもの状況と学び」「外国ルーツの子どもの学び」など、支援団体や関係団体と連携して課題の現状を広く訴える活動を実施。オンラインでのシンポジウム(ベネッセこども基金MeetUp)により、様々な立場の方との活発な意見交換も実施できた。

2021年度は

引き続き、学びの質向上、課題の社会発信に取り組むつつ、2021年度は団体の事業評価についての研究会を発足させ、団体共通課題への支援をより充実させていきます。



### よりよい社会づくりにつながる学び支援

先進的な取り組みを行っている団体と共に、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

#### 親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト



2020年度結果 応募数：3,278作品 参加園：150園

過去最高

就学前の子どもたちが保護者と発達途上国の問題について学ぶプログラム。認定NPO法人グッドネーパーズ・ジャパンと共催。

#### 国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」日本版

2021年5月 「東京2020パラリンピックのレガシー」がテーマの新教材をWEB公開



公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンターと連携して教材を制作。

#### 高校生英語ディベート世界大会(WSDC)

初のオンライン開催で、世界73カ国が参加。日本代表は3勝3敗の好成績!



日本代表5名中、3名がスピーカー賞を受賞!

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟(HEnDA)の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2021年度は

2021年度はよりよい社会づくりにつながる新たなテーマの企画実施を様々なセクターと共に進めていきます。